

大阪市医療懇話会(10/26 開催)における主な意見

地域医療構想について

- ・必要な病床は、府民市民にとって必要な病床であるべきということを踏まえておいてほしい
- ・回復期が不足となっているが、実際には回復期リハビリテーション病床はほぼ充実した状態になっているのではないと思われる。現状を踏まえて、何が本当に必要かということ、大阪市内において考えていく必要がある

第6次保健医療計画の評価について

- ・がん検診の受診率は上昇しているが、まだまだ現状としては低い
- ・糖尿病重症化予防は一定の成果が上がっている、引き続き取り組んでいただきたい
- ・がんの評価について、数値的に改善しているという意味で、「概ね計画どおり」でいいのでは
- ・医科・歯科の救急医療体制について、出務する医師の安定的な確保と整備が望まれるとしている一方で、「計画通り」でいいのか？
→ 365日休日急病診療所を開設できていることなどから、「計画通り」の表現としている

第7次保健医療計画圏域編について

- ・訪問診療を実施している診療所について、医科だけでなく、歯科についても出してほしい
→ 26年の医療施設調査結果であるが、区ごとの数値はでておらず、厚労省より非公開データとして大阪府が独自に入手したもの。歯科の数値については、担当課に確認・相談する
- ・二次医療圏ごとで多様な精神疾患に対応できる体制を構築する必要があるとされているが、一方で圏域内に精神病床が少なく、入院患者さんが圏域外に流出超過となっていると、認識されている。具体的にどのような対応を考えておられるのか
→ 役割分担を明確にしながら、医療体制を整えていくという方向で、進めていきたい
- ・精神医療では、こころの相談センターで相談するという仕組みが大事であるので、そこも連携して充実させてほしい
- ・小児周産期医療では、社会的にサポートの必要な人がおられるので、現状のシステムを維持していくという認識はもっておいてほしい
- ・在宅医療では、他職種が協働して地域の住民の方々を守っていくことが必要であり、医療資源の実態についての把握にも力を入れてほしい

その他大阪府保健医療計画について

- ・結核罹患率は低下してきているが、全国に比べるとまだまだ高いので、さらに努力してほしい
- ・新興感染症については、医療体制の確保という意味では十分とはいえないと思うので、こちらも力を入れていただきたい
- ・難病について、指定される疾病が増えたので、医療機関に対する研修を充実していただきたい